

あたらしい明日に向かって



院長 神山 有史

あけましておめでとうございます。
本年もよろしく願い申し上げます。

当院は腎・泌尿器科、透析科、緩和医療の専門病院として患者さんに安心して受診していただけるよう最新の知識と手技をもとに先進的な医療にとりくんでいます。確実に医療を実践するため、職員の働く意欲を高く保つことや医療者間の密接な意思疎通を図り、病院組織の連携がダイナミックでスムーズであること、医療者と患者さんとの連携を密にして患者さんの医療への参加・協力が得られることをめざしています。

安全な医療の実現のため医療者と患者さん・家族の方の間には双方向のコミュニケーションを図らなければなりません。すべての職員は患者さんに声掛けし病状把握や症状軽減、安全確保につとめます。声を掛けていただいた時は仕事の途中であっても手を止めて向き合い、耳を傾け、顔を見て話をします。また聞かれたことや不安なことへの説明は、わかりやすい言葉でゆっくりと、納得していただけるまでお答えして疑問の解消につとめます。診療面では透析、緩和医療と同時に腎尿管結石に対する内視鏡的結石破碎術：f-TULに注力しています。

今年一年改めて皆様とともに安全で確実な医療を目指します。

ご自由にお持ち帰りください

亀井病院の目指すもの…技術の向上「f-TUL」

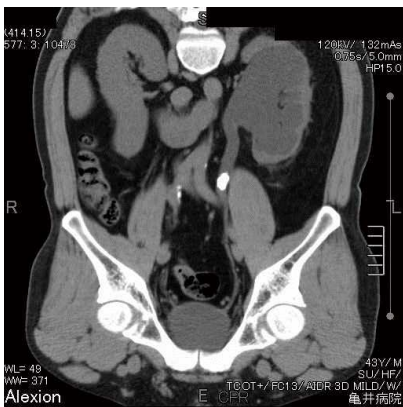
軟性尿管鏡を用いたレーザーによる尿管結石碎石術



診療部泌尿器科
医長 榊 学

平成12年 徳島大学卒業
日本泌尿器科学会専門医 指導医
日本透析医学会専門医 指導医

当院では尿路結石に対して、平成24年3月に軟性尿管鏡とホルミウムレーザーを用いたTUL（f-TUL）を導入し、4月より本格的に治療を開始しました。徳島大学泌尿器科の井崎博文先生による御指導の下、安全性を第一に11月までに約70例の手術を行いました。スムーズに治療できた症例だけでなく、結石が同一部位に長期間嵌頓したため治療に難渋した症例や腎機能が低下した症例を経験しました。



〔図〕腎機能障害と腎萎縮が起ってしまった症例

尿路結石を放置した場合、腎盂腎炎などの感染症、腎機能障害などを起こすことがあります。図は尿管結石が同一部位に長期間嵌頓したため、不可逆性の腎機能障害と腎萎縮が起こってしまった症例です。このような症例では尿路結石に対してf-TULを行った後も腎機能が元通りに回復することはありません。しかし、不可逆性の腎機能障害が起こるには、通常3ヶ月以上の尿路閉塞が必要とされているため、閉塞を伴った尿路結石の場合は早期治療が重要です。

先日、当院の医師・看護師4名と、徳島大学泌尿器科の医師2名の合計6名で、青森県の医療法人平成会 八戸平和病院へ手術研修に行き参りました。

八戸平和病院は、年間約300例のf-TULを行っており、井崎博文先生の師匠である三浦浩康先生はf-TULの先駆者です。実際の手術手技を拝見し、その卓越した技術とサポートするスタッフの無駄のない動きに大変おどろき、感銘を受けました。

また、手術終了後には模型を使った指導までして頂きました。片道約8時間の長距離移動に比較し、約5時間という短い時間ではありましたが、とても内容の濃い手術研修を受けることができました。



f-TULの進歩には、内視鏡の細径化など結石治療デバイスの発達が寄与しているのは事実ですが、安全かつ確実な手術を行うためには、それらの道具を操る術者の技術とスタッフとの連携が不可欠です。今回の手術研修で経験したことを生かし、今後も症例を重ねていきたいと思っています。



当院の教育施設認定

- 日本泌尿器科学会 泌尿器科専門医教育関連施設
- 日本透析医学会 専門医制度認定施設
- 日本緩和医療学会 認定研修施設
- 協力型臨床研修病院

患者さんと病院を笑顔でつなぐ裏方のちから



事務部

事務部は医事課、システム管理、総務と担当部門が分かれており、12名で構成されています。

医事課の業務は受付をはじめ案内・会計・転入院相談など多岐にわたっています。患者さんに一番最初に接する受付では不安な気持ちをやわらげられるような温かい笑顔でお迎えしています。また来院されるみなさまに、気持ちのよい挨拶ができるように心がけています。常に上質な接客サービスを提供することができるように、院外の接客マナー研修会へ積極的に参加したりもしています。

平成23年10月からは外来初診患者さんを対象に「第一印象調査」を開始しました。診察終了後の待ち時間を利用して、医師・看護師・受付スタッフの接し方や言葉遣い、身だしなみについて、第一印象を5段階で評価して頂いています。みなさまか

らいただいた率直で客観的な評価をもとに、改善すべき点を明確にしてよりよいサービスができるように考えています。

事務部は病院内外に向けて有益な情報を提供する「情報発信基地」としての役割も担っています。院内では診療報酬改訂情報や各種学会・講習会の開催案内、感染症の発生動向や患者さまから寄せられたご意見の内容などを院内メールで全職員へ発信し、必要な情報をスピーディーに提供しています。一方、院外への取り組みは、広報誌やホームページなどを通じて診療行為や院内行事などの紹介をしており、より多くの患者さんや近隣の医療機関のみなさまにご利用いただけるよう努めています。

一昨年からは「臨床評価指標」(Clinical Indicator、以下CI)の集計を開始しました。これは、病院のさまざまな治療成績の状況などを数値化し、時間的経

過を評価・分析することにより、医療の質の向上に役立てることを目的に作られたものです。当院ではさらに部署ごとに評価をする機会を設け、半期に一度設定する部門目標の中にもCIを取り入れて、モニタリングをする仕組みを採用しています。例えば診療部はVAI-VT後二次開存率の向上、看護部は褥瘡推定発生率や針刺し事故発生率、栄養部は年間栄養指導件数の目標値などをそれぞれ設定し、月ごとに達成状況を評価しています。これらの真正性を確認したうえで、集計が見やすく分かりやすいようにする作業も行っています。今後は院外へも公開できるように、準備を進めていく予定です。



新入職員の紹介

①氏名 ②職種 ③出身地 ④趣味・特技 ⑤抱負をひと言

* 2人の「やすよさん」の入職を心から歓迎します *



左 ①宇坂 泰代
(うさか やすよ)

②准看護師

③徳島県

④ドライブ

⑤亀井病院の一員として

頑張っていきたいと思います。

右 ①数藤 康世

(すとう やすよ)

②看護師

③徳島県

④買い物

⑤一生懸命頑張りますので

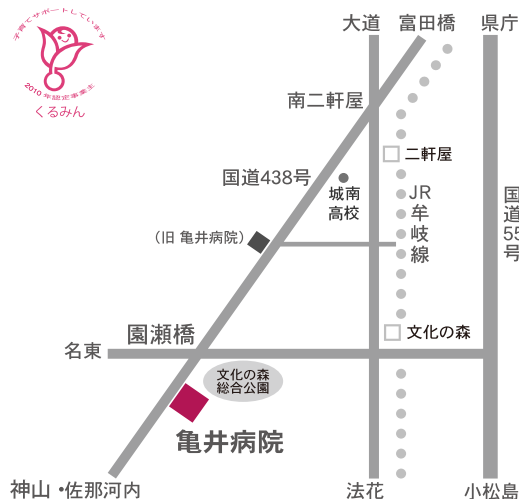
よろしくお願ひします。

わたしたちと一緒に働きませんか？ 亀井病院は看護師さんを募集しています

外来診療のご案内 平成 25 年 1 月現在

	月	火	水	木	金	土
腎・泌尿器科						
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●
14:00~16:30	●				●	●
VA治療						
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●
14:00~16:30	●				●	●
透析科						
8:00~	●	●	●	●	●	●
12:30~	●	●	●	●	●	●
17:00~	●				●	
総合診療科	(第2・4土曜日は休診)					
9:00~12:00	●	●	●	●	●	○
緩和医療科						
9:00~12:00		●		●		
麻酔科						
9:00~12:00	●	●		●	●	
腎臓内科						
9:00~12:00			●			
14:00~16:30			●			
循環器内科	(第2・4水曜のみ)					
13:00~17:00			○			
整形外科	(第2・4土曜日のみ)					
9:00~12:00						○

※緊急の検査・手術や学会出張等で変更になる場合があります。
 ※いずれの外来も予約制で行っています。ご来院の際は、事前の確認と予約の電話をおねがいします。



- 国道 438 号線沿い 文化の森総合公園の西側隣
 - 駐車場 125 台
 - 徳島バス 佐那河内線、徳島市バス 一宮線
- 【亀井病院前】下車。上下線とも（徳島駅からは約 15 分で）病院玄関前に停車します。
 詳しくは総合受付までお問い合わせください。

〒770-8070 徳島市八万町寺山 231
 TEL.088-668-1177 FAX.088-668-1122
 ホームページ <http://www.kameihospital.com/>

地域医療連携室からのお知らせ 緩和ケアの連携を行っています

- わたしたちが緩和ケアに取り組み始めてから、早いもので今年 20 年目になります。取り組み当初から、患者さん一人ひとりと向き合い、やさしい気持ちや思いやりを持って医療・ケアを行ってまいりました。現在、常勤 2 名のがん治療認定医を中心に、化学療法を続けつつ緩和医療を行っています。
- 当院は在宅療養支援病院です。在宅でがんと闘っておられる患者さんや、担当されておられる先生方に安心なバックベッドとしてご利用いただけます。
- 電話にてご相談ください。

表紙の写真

- ご好評いただいている表紙の写真について、毎号少しですが紹介していきます。
- 今回は『吉野川河口の朝日』です。目の前には紀伊水道が広がっており、天気がいいときは和歌山まで眺められます。2013 年がいよいよ一年でありますように。

病院の理念

よりよい医療を提供し
 社会に貢献いたします

* 4 つの基本方針 *

1. 患者さんの話に耳を傾ける医療
2. 職員全員が医療人としての技量を発揮するチーム医療
3. 患者さんの健康回復・社会復帰を目指す医療
4. 他の医療機関と連携する医療

職員全員で患者さんが
 健康回復に取り組むことを
 医療的にそして精神的に支援します

編集後記

文章を書く仕事にあこがれていた頃から、時を経ること数十年…。思い描いた形は違えど、広報誌の編集に携わっている現実には不思議な縁を感じます。いくつもの縁が織り成す奇跡の積み重ねが、ささやかな日常を動かしているのかもしれませんが、たくさんのご縁をつなぐ小さなきっかけとして Pipi がますます羽ばたいていけるよう共に成長していきたいものです。
 (A.M.)